

教育に関する事務の点検・評価報告書  
(令和2年度実施事業)

白石市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条  
第1項の規定により別紙のとおり報告します。

令和3年9月6日

白石市教育委員会

教育長 半 沢 芳 典

## I 事務の点検・評価について

### 1. 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされています。また、点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

このため、教育委員会では、教育行政の効果的な推進を図るため、「教育に関する事務の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

### 2. 点検評価の対象

令和2年度に教育委員会が定める「白石市教育方針」に掲げた事務事業を対象としました。

### 3. 点検評価の方法

点検評価は、事務事業の必要性、効率性、有効性、公平性の観点から自己評価を行いました。また、客観性を確保するため、外部の学識経験者より意見をいただきました。

### 4. 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが行った点検・評価の結果について、学識経験者2人から意見をいただきました。

学識経験者：小関 俊昭 氏 学識経験者：渡辺 美貴 氏

### 5. 結果の取り扱い

この点検評価の結果については、課題や問題の解決を行うと同時に事務事業の見直しについて検討することとなります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

**（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）**

**第26条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

**2** 教育委員会は、全校の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 令和2年度白石市教育方針等について 白石市教育方針

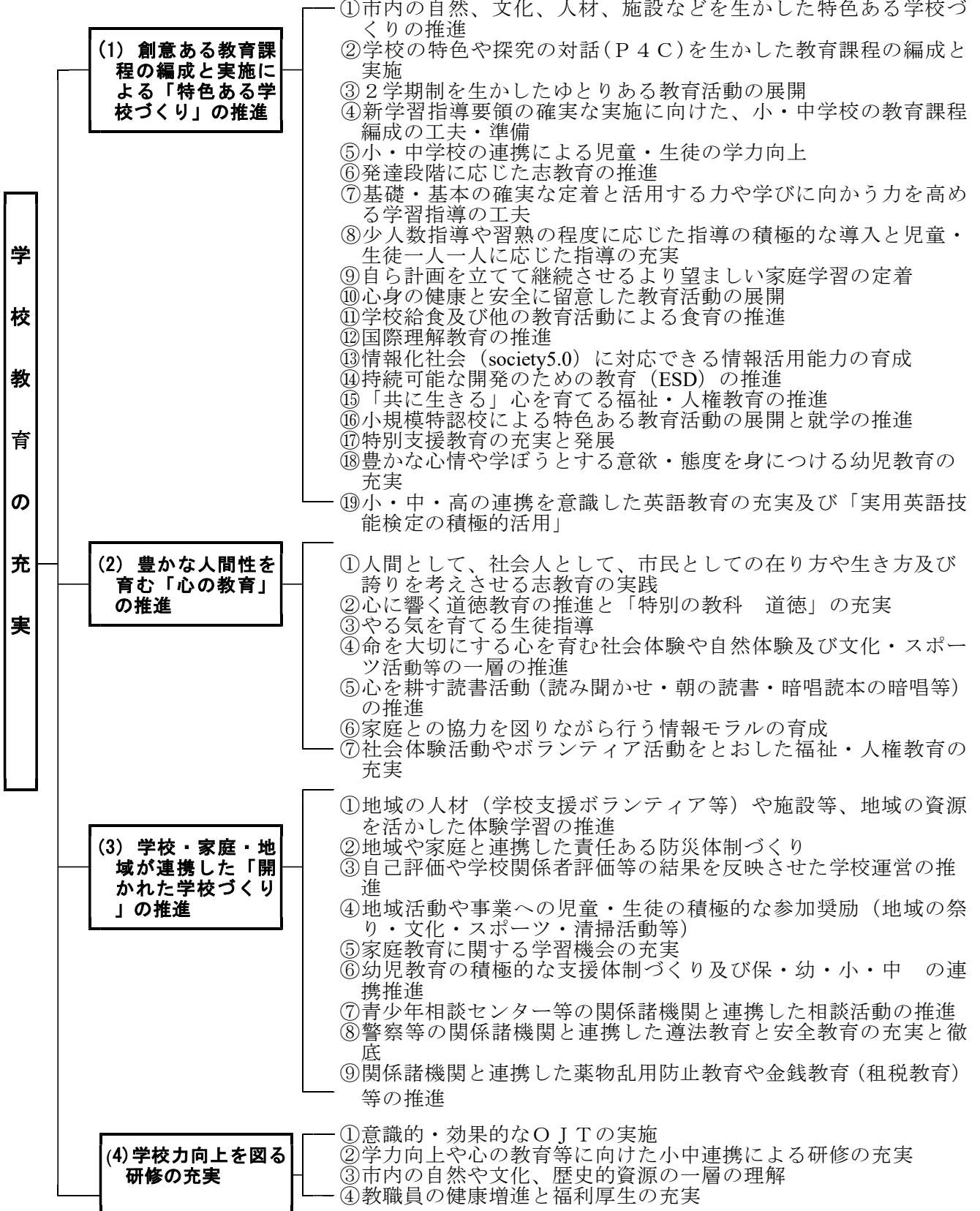
教育基本法の精神に基づき、生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を持つ幼児・児童・生徒を育成するとともに、一人一人の生涯にわたる学習の充実と家庭や地域社会の教育力の高揚を図り、さらに伝統文化の尊重や誇りをもって生きる市民を育成し、「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」の実現を期する。

## 1 学校教育の充実

魅力ある学校づくりと教職員の資質・力量の向上

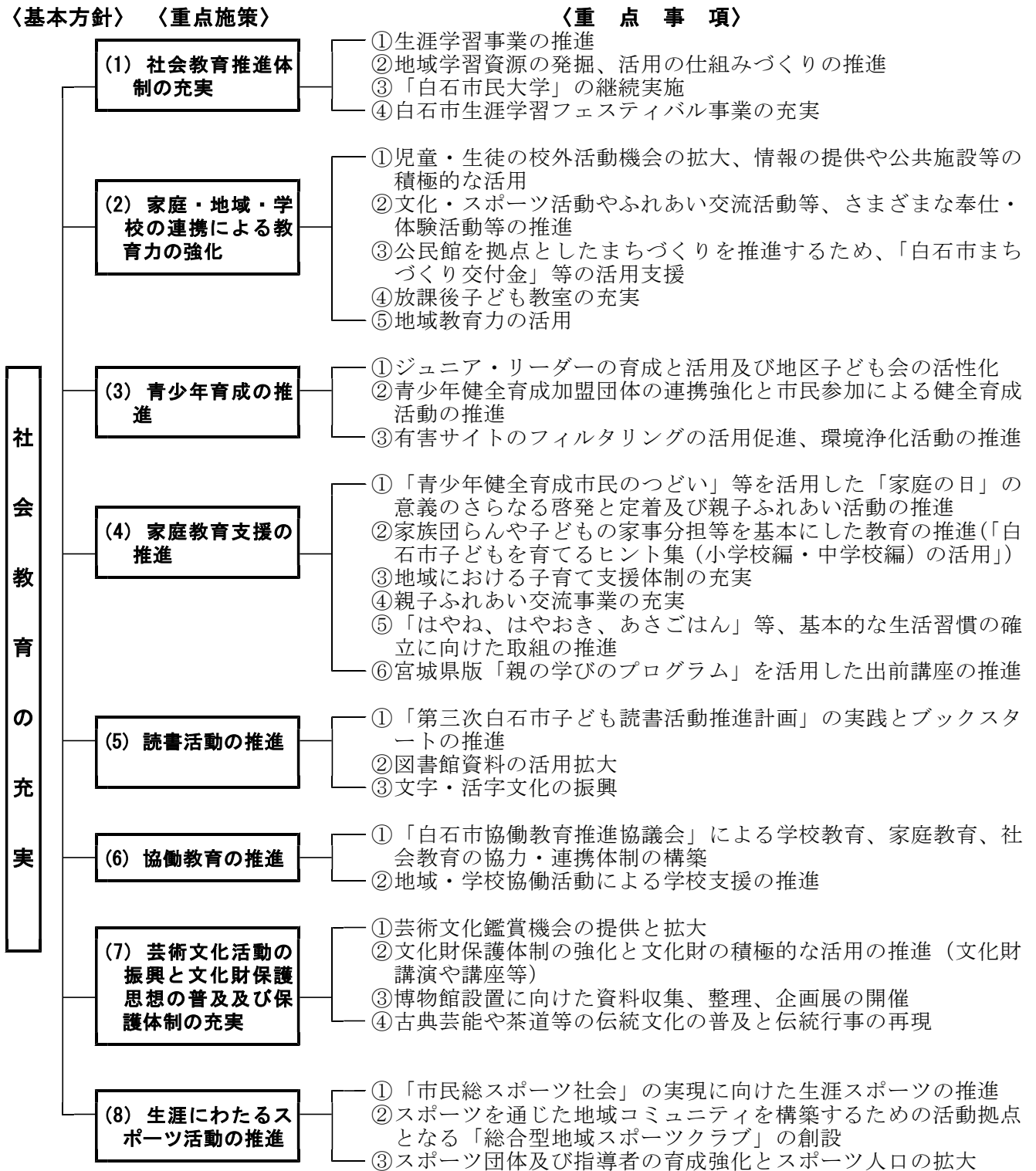
〈基本方針〉 〈重点施策〉

〈重点事項〉



## 2 社会教育の充実

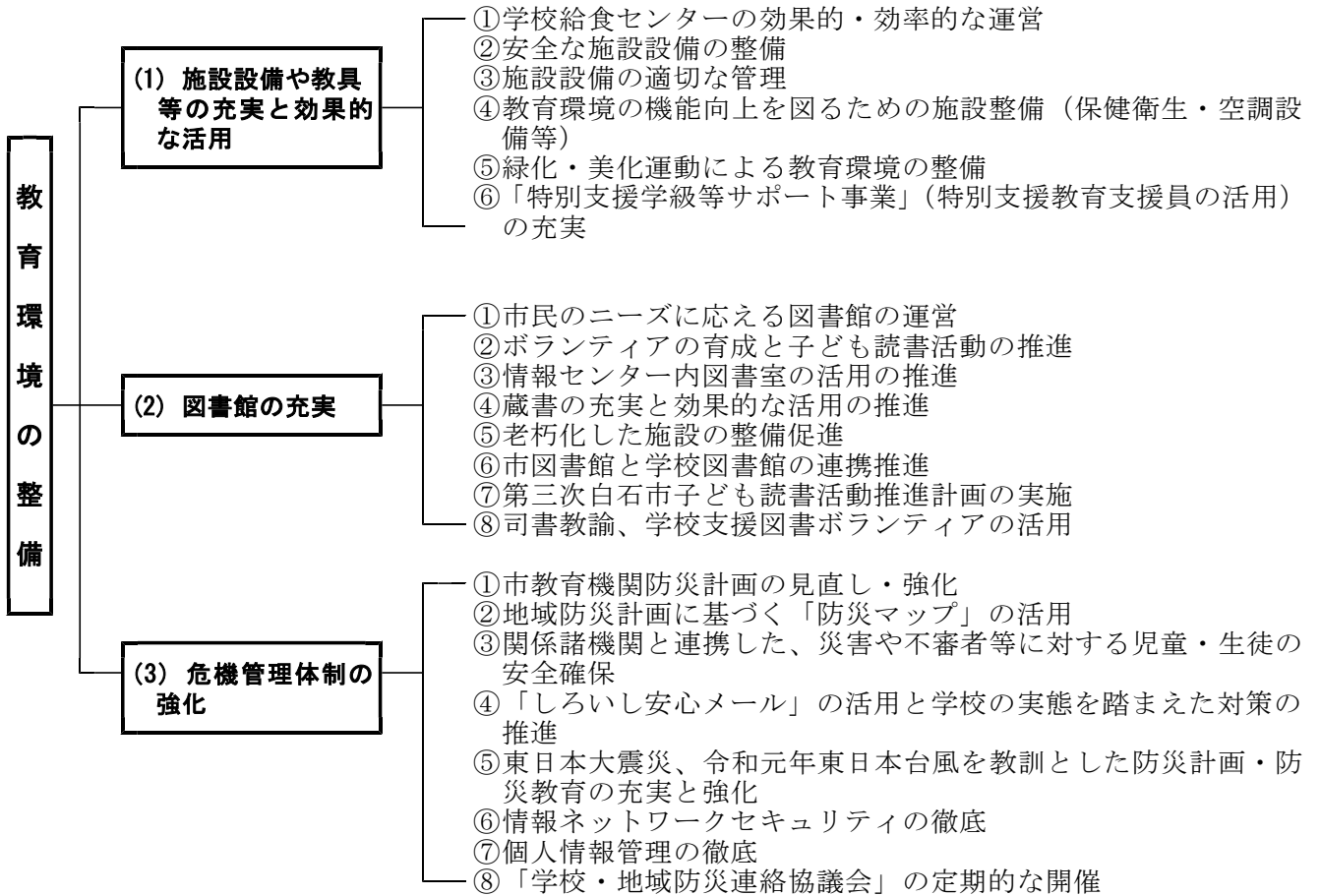
心豊かで生きがいのある生活の創造と連帯意識に満ちた活力ある地域づくり



3 教育環境の整備  
ゆとりと潤いのある教育環境づくり

〈基本方針〉 〈重点施策〉

〈重点事項〉



基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	施設設備や教具等の充実と効果的な活用 3-(1)-②③④		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設及び設備の適切な維持管理を行い教育環境の充実を図る。		
1. 令和2年度予算額	10,462千円	2. 令和元年度決算額	14,878千円
3. 令和2年度の 事業内容	小・中学校及び幼稚園の定期的な保守点検及び修繕等により、維持管理を行う。 (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。限られた財源であるので、必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。また、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、補正予算により対応している。)		
4. 事業の実績	当初予算(修繕費)にて22件の修繕を行い、補正予算により必要性・緊急性などを勘案して30件修繕を行った。またその他、簡易な修繕は、各学校に配当している予算で対応した。		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】</p> <p>必要性・緊急性を勘案しての令和2年度当初予算及び、緊急性によりやむを得ず要求した補正予算については、スピーディーに発注することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>施設の経年劣化による老朽化が進んでいる。屋根の雨漏りや水道管の漏水、設備機器などの故障が発生した場合、出来る限り速やかに対応はしているが、予防的な修繕にまで手が回らない。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・施設の老朽化が進み、予期せぬ修繕箇所も多くなっていると思うが、限られた予算の中で、子どもたちの安全を第一に考え、今後も迅速に対応してほしい。</p> <p>・学校で行う安全点検についてよりよい点検となるよう、助言、指導をお願いしたい。</p>		

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課学務係
事業名	就学援助事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	経済的理由によって、義務教育である小学校、中学校に就学することが困難な児童・生徒の保護者に支援をすることで、義務教育の機会を確保する。		
1. 令和2年度予算額	19,347千円	2. 令和元年度決算額	23,406千円
3. 令和2年度の事業内容	<p>生活保護受給世帯の児童生徒(要保護)及び生活保護に準ずる程度に困窮している世帯の児童生徒(準要保護)に対し、就学に必要な以下の項目へ補助を行っている。</p> <p>(1)学用品費、(2)通学用費、(3)校外活動費(泊なし)、(4)校外活動費(泊あり)、(5)修学旅行費、(6)学校給食費、(7)新入学児童生徒学用品費、(8)医療費</p> <p>また、一人一台タブレット端末の整備完了に伴い、新たに(9)オンライン学習通信費を補助項目に追加した。</p> <p>要保護世帯に対しては、生活保護で支払われない「(5)修学旅行費」のみ支給している。準要保護世帯は全ての項目が対象であるが、新入学児童生徒学用品費や泊あり校外活動費、修学旅行費といった特定の学年にのみ支給されるものもある。</p>		
4. 事業の実績	<p>支給対象者は要保護が小学生9名(6名、+3名)、中学生3名(2名、+1名)で、準要保護は小学生163名(182名、-19名)、中学生99名(102名、-3名)である。</p> <p>要保護、準要保護児童生徒が市内児童生徒に占める割合は、小学生11.38%(12.11%、-0.7%)、中学生12.08%(12.31%、-0.23%)となっている。</p> <p>※括弧内は令和元年度実績値、令和元年度と令和2年度の比較を表す</p> <p>※令和元年度実績値は、台風19号で被災した世帯(小学生10名、中学生8名)に対する途中認定を含む</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>就学援助の申請理由は家庭により様々であるが、経済的に困窮している家庭は少なくない。そのような中であっても、児童生徒には経済的に不安を感じることなく、安心して義務教育に取り組んでもらいたい。就学援助事業はそのためのセーフティネットであり、その果たしている役割は重要であると考えます。</p> <p>【課題】</p> <p>児童生徒の総数は年々減少しているが、支給対象者が一定数いるのが現状であり、教育費に不安を感じている家庭が少なくないと推測される。制度利用に引け目を感じる等の理由で、真に援助が必要な家庭に支援が届かないことのないよう、引き続き学校とともに制度周知を図っていく必要がある。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・コロナ禍で困窮している家庭も多くなっていることもあり、本制度は効果は大きい。</p> <p>・コロナの影響で、家庭の事情も変わってきている。子どもの貧困化進んでいる状況にあり、学校と連携し各家庭に本制度を周知することを徹底し、真に必要な家庭に援助をお願いしたい。</p>		



基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 令和2年度予算額	27,780千円	2. 令和元年度決算額	22,417千円
3. 令和2年度の事業内容	令和2年度は1名増員し、ALT5名を配置(JETプログラム3名、市直接雇用1名、派遣ALT1名。JET3名中1名が8月に退任し、後任には派遣ALTを配置した。)市内全小・中学校及び保育園・幼稚園(計10園)にALTを派遣し、授業での活用や交流活動を行った。		
4. 事業の実績	各学校のALT年間配置日数(R1) 白一小83.5 白二小106 越河小33.5 大平小36 大鷹沢小37 白川小36 福岡小39 深谷小36 小原小中72 白石中77 福岡中72 東中96.5 ※この他、保育園・幼稚園に年3日を上限として配置。		
	各学校のALT年間配置日数(R2) 白一小88.5 白二小109 越河小49 大平小38 大鷹沢小31 白川小35.5 福岡小35 深谷小40 小原小中50 白石中187 福岡中74 東中188 ※この他、保育園・幼稚園に年3日を上限として配置。 ※R2は休校の影響により5月下旬～3月の日数		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>ALTを1名増員することで、特に授業時数に比して配置日数の割合が低かった白石中、東中においては、専属の1名を配置することができ、ALTを授業や学校行事等で効果的に活用する機会が増えた。また、ALT派遣会社の提案により、白石中と福岡中において、海外の学校とオンラインによる交流を行うことができた。生きた英語を学ぶ機会の増加と異文化に対する理解の深まりにつながった。</p> <p>【課題】</p> <p>令和3年8月以降はALTの雇用形態のほとんどが派遣会社からのALTとなるが(会計年度任用職員1名は継続)、学校、派遣会社と一層の連携を図り、令和3年度から始まった英語特区による取り組み等で効果的に活用できるよう検討する必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣会社のALTの授業を実際見たが非常によい内容であった。JETプログラムと違う派遣会社ならではの内容であった。ますます充実した内容となることを期待する。</li> <li>・小学校でも、海外とのオンラインによる交流を取り入れ、低年齢のうちから生の英語に触れる機会を多くつくる必要があるのではないか。併せて、幼児の英語教育にも引き継ぎ力を入れて欲しい。</li> <li>・昨年検討をお願いした小中学校の配置バランスが改善されてよい。</li> <li>・英語特区を活用し、生の英語に触れる機会を充実してほしい。</li> </ul>		

基本事業	生徒指導関係事業	担当課	学校管理課
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む「心の教育」の推進、学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 令和2年度予算額	16,686千円	2. 令和元年度決算額	15,588千円
3. 令和2年度の事業内容	白石市子どもの心のケアハウス、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラーの運用と活用。いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会の開催。		
4. 事業の実績	令和元年度 ケアハウス: 支援児童生徒実人数129人(学校復帰児童生徒実数8人)、保護者支援総数38人 相談センター: 相談件数41件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数114件 仙南けやき教室: 通所者11名、相談件数27件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数56人、訪問活動回数252回 スクールカウンセラー: 相談件数小学校児童135件、教員28件、保護者353件 中学校生徒305件、教員16件、保護者147件		
	令和2年度 ケアハウス: 支援児童生徒実人数153人(学校復帰児童生徒実数4人)、保護者支援総数60人 相談センター: 相談件数44件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数70件(217人) 仙南けやき教室: 通所者5名、相談件数57件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数 44人、訪問活動回数 431回 スクールカウンセラー: 相談件数小学校児童 68件、教員 34件、保護者 390件 中学校生徒 268件、教員 3件、保護者 104件		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 不登校児童生徒への支援の目的が、学校復帰から社会的自立へとシフトする中で、各機関の相談件数や支援者数は増加傾向にあり、問題を抱える児童生徒や保護者へ積極的に関わっていることの表れであると考え。平成26年度からSSWを活用しているが、令和2年度中には活動の拠点を子どもの心のケアハウスに置き、ケアハウススーパーバイザーとの連携を図りながら、学校や家庭の要請に柔軟に対応できるようになった。また、令和2年度はコロナ禍により「いじめ防止大会」は中止となったものの、各学校におけるいじめ防止の取り組みについて取りまとめた冊子を作成し、関係機関へ配付した。</p> <p>【課題】 不登校児童生徒は毎年増加しており、市としても将来的に引きこもり等の大きな問題となることが危惧されている。学校や関係機関、民間団体とより強力な連携を図り、個々に応じた見立て(アセスメント)による支援を行うことができるよう、これまでの子どもの心のケアハウスでの取り組みを基に、「教育支援センター」としての機能を備えた施設整備を行っていくことが課題である。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・意欲的に取り組んでおり、復帰児童が令和元年度は8人、2年度は4人と素晴らしい成果である。</p> <p>・一方で、不登校が増え人員不足ではないかと感じる。コロナの現状や不登校児童生徒が年々増加している状況下でケアハウス等の役割はますます大きくなっている。人員確保し、体制強化を望む。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 令和2年度予算額	5,277千円	2. 令和元年度決算額	6,086千円
3. 令和2年度の事業内容	<p>家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催</li> </ul> </li> <li>○学校教育支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行</li> </ul> </li> <li>○地域活動支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業</li> </ul> </li> <li>○放課後子ども教室                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・越河小学校・深谷小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの一体型及び連携型で運営</li> </ul> </li> </ul>		
4. 事業の実績	<p>・ボランティア派遣学校数：小学校及び中学校計10校(13校)、市内幼稚園2園(市内幼稚園2園)</p> <p>・年間活動日数：第一小2日(265日)、第二小206日(240日)、越河小44日(46日)、大平小15日(30日)、大鷹沢小221日(218日)、白川小1日(21日)、深谷小18日(43日)、福岡小197日(47日)、小原小41日(35日)、小原中19日(17日)、第一幼稚園6日(1日)、第二幼稚園5日(2日)</p> <p>・家庭教育学習講座の実施数：6校(6校2園)</p> <p>※()の数値は昨年度</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。過去9年間の実績を踏まえ、家庭教育支援では実施学校が増加傾向にあり、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている、学校教育支援ではまだまだボランティアの人手は必要ではあるが、校外の活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動していただき、放課後子ども教室は継続して実施できた。</p> <p>【課題】</p> <p>全国的な傾向ではあるが、少子化が進み、学校の統廃合により特色ある教育活動・伝統文化の継承が困難となり、地域コミュニティの衰退も懸念される現状である。今後、地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・コロナ禍で地域コミュニティが衰退している。学校だけで教育を進めるのは難しい。地域のまちづくり協議会の積極的なかかわりが必要である。限られた予算の中ではあるが、国の補助金などを活用し引き続き事業を継続してほしい。</p> <p>・学校と地域の繋がりは互いに重要である。学校統合により、学校と地域のかかわりが薄くなるのが懸念されるが、その中でも、南中の和紙すきを小原中で継承するなど、廃校となった学校で取り組んでいた伝統文化を他の学校が継承しているのは素晴らしい。</p> <p>・今後も学校活動に地域が参画できる体制の構築に努めてほしい。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡環境整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	<p>市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。</p>		
1. 令和2年度予算額	6,487千円	2. 令和元年度決算額	6,344千円
3. 令和2年度の事業内容	<p>史跡環境整備事業では、遺跡が所在していることを分かりやすくするために新たに標柱を設置したほか、風雨にさらされ文字の判読が難しくなった説明板・標柱を塗り替え、更新した。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において遺跡の有無を確認するための発掘調査を実施した。また、令和元年度に発掘調査が行われた馬場台遺跡が、本市の古代を知る上で重要な遺跡であるとみられることから、白石市教育委員会独自で発掘調査を実施した。そのほか、大鷹沢にある古墳の測量調査等を実施した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(令和2年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え5件、発掘調査17件                  (令和元年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え4件、発掘調査21件</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b>                  史跡環境整備事業においては、標柱新設・説明板更新により身近な地域に様々な文化遺産があることを周知することができ、その理解促進に役立った。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、発掘調査によって遺跡の状態が把握され、開発事業者と遺跡保護に向けて円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた。</p> <p>特筆すべき点としては、本市が重要遺跡の内容解明のために発掘調査を実施し、文化財行政上貴重な取り組みとなった。</p> <p><b>【課題】</b>                  市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化し、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。また、看板が設置されている文化財そのものの状況把握も課題である。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業は、令和3年度以降に大規模開発事業が複数予定されているが、対応できる職員の十分な確保が大きな課題である。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>・専門職員が少ない。大規模開発事業に対応するためには人材確保が必要である。</p> <p>・文化財については、市民にあまり周知されていない感じがする。地域の文化財や文化財の調査状況等を広報などにより、市民にもっとPRすべきである。文化財は、学校教育にも有意義なものである。もっと、活用してほしい。</p> <p>・遺跡の発掘や維持には費用も伴うが、限られた予算の中で計画的に進めてほしい。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	生涯にわたるスポーツ活動の推進 2-(8)-①		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 令和2年度予算額	2,734千円	2. 令和元年度決算額	5,383千円
3. 令和2年度の事業内容	<p>○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○スポーツ推進委員と連携し、いきいきEnjoy教室を開催し、ニュースポーツを通じて体を動かす楽しさを見つけるとともに会員相互の親睦交流を図った。</p> <p>○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市体育協会事業)及び学校施設開放業務</p>		
4. 事業の実績	<p>○ニュースポーツ移動教室 (R1実績)計21回開催(うち小学校12回、地区公民館等9回)、参加者(延べ)1,238名 (R2実績)計9回開催(うち小学校7回、地区公民館等2回)、参加者(延べ)423名</p> <p>○いきいきEnjoy教室 (R1実績)計22回開催 参加者(延べ)791名 (R2実績)計22回開催 参加者(延べ)565名</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b> コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底し、ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらい良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p><b>【課題】</b> 少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。また、コロナ禍でもあり、感染防止対策を行いながらになるが、この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続きいきいきEnjoy教室や地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・コロナ禍でのスポーツイベントの実施は難しいところではあるが、その中でも工夫して実施していることは素晴らしい。</p> <p>・高齢者の健康維持のためにも本事業は有効で、子どもたちも加わった活動にすることで、なお高齢者もやりがいが出て、効果的な活動となるのではないかと。</p> <p>・少子化により、部活動が成り立たない状況もある。また、子どもたちの運動部離れも進んでいる。みんなと一緒にスポーツをする楽しさを知るために、小さいころから多くの人と体を動かす機会を作ることが大切である。その意味でも本事業を継続し充実を図ることを期待する。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-①		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 令和2年度予算額	千円	2. 令和元年度決算額	千円
3. 令和2年度の事業内容	中央公民館が地域の活動拠点として活発に利用されるよう各種団体と地域社会がもつ教育機能の有機的な連携を図り、学習機会や学習情報等の提供を行う。		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用回数:(R1)2,027回 (R2)1,545回</li> <li>●利用人数: (R1)49,068人(うち 主催事業25,908人、社会教育関係団体12,463人、その他10,697人) (R2)18,591人(うち 主催事業1,953人、社会教育関係団体6,574人、その他10,064人)</li> </ul>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館や利用定員の抑制等の措置をとったことや定期講座の延期、公民館まつりの中止などのため、利用回数は対前年度比△482回(△24%)、利用人数は対前年度比△30,477人(△62%)となったが、感染防止対策を徹底しながら、鋭意市民への学習機会や学習情報の提供に努めた。</p> <p>【課題】 引き続き生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、自主的な学びへの支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努めていく。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で対策を徹底しながら、学習機会の提供に努めていることは素晴らしい。</li> <li>・オンラインを活用しオンデマンドによる学びの場の提供を検討してはどうか。オンデマンドでの配信だと、受講者がニーズに合わせて受講でき、視聴回数をチェックすることで、こちら側でもニーズを把握することができ、今後の講座内容に生かすことが期待できる。</li> <li>・本事業は市民の学びの場としての存在は大きい。ますますの充実を期待する。</li> </ul>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課地域支援係
事業名	まちづくり交付金事業		
重点施策 (白石市の教育より)	家庭・地域・学校の連携による教育力の強化 2-(2)-③		
事業の目的・目標	地域の特性を活かした市民主役のまちづくりを具体化するための事業を行う団体を支援する。		
1. 令和2年度予算額	4,679千円	2. 令和元年度決算額	5,023千円
3. 令和2年度の事業内容	<p>令和2年度は花の植栽や樹木の剪定などの環境美化、祭りの開催、史跡の伝承、持続可能な地域づくりへの取り組みなど、地域の資源や特色を生かした多様な事業展開がされた。</p> <p>各地区の事業件数内訳は、白石地区5事業(1,253,000円)、越河地区2事業(117,422円)、斎川地区2事業(537,000円)、大鷹沢地区1事業(576,000円)、白川地区1事業(443,100円)、福岡地区4事業(747,000円)、深谷地区1事業(236,000円)、小原地区2事業(170,000円)、合計18事業(4,079,522円)であった。</p>		
4. 事業の実績	<p>全事業における地域住民の参加者実績が1,415人、見込が1,458人であり、見込に対し97.1%の参加率であった。</p> <p>(平成31年度の参加者実績:9,499人)</p> <p>※H30年度は見込数の報告が義務化されていなかった。</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b> 平成25年度に制度が創設され8年が経過し、多くの方に認知される制度になった。これまでに、128事業が採択となり、地域の伝統文化や地域資源を活かした地域活性化や地域コミュニティの活性化が図られる事業が展開された。このことにより、住民の学びを深める場の提供、地域資源の再確認の機会の創出、地域住民の交流促進を図ることができた。</p> <p><b>【課題】</b> 交付金の活用団体が固定化しており、新規団体の申請が少ない状況である。また、地区ごとに予算の上限額を設けているが、執行状況が大きく異なる。さらに、現制度の交付対象事業は、住民が直接関わることのない委託事業も対象になっており、各団体の実施事業の内容に大きな差が出ている。</p> <p>これらも踏まえ、第六次総合計画策定に合わせ、より住民自治を育める制度の在り方を検討し制度の見直しが求められる。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>・地区によっては、事業プランを自分たちで立て、交付金申請の手続きをするのが難しい地区もあるので、行政でサポートをお願いする。サポート体制を整え、多くの地区で交付金が活用されることを期待する。</p> <p>・令和3年度から第6次総合計画策定により、まちづくり推進課に所管替えされていることから、行政で魅力ある事業となることを期待する。</p>		





基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-②)・図書館の充実(3-(2)-①,②,③,④)		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まですべての市民の生涯学習の場として、資料や情報を収集、提供し、「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 令和2年度予算額	29,069千円	2. 令和元年度決算額	21,699千円
3. 令和2年度の事業内容	(1) 各分野を網羅した資料を収集、提供し、利用者の視点に立った書架の整備を進めたことで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) 非接触型サービスのひとつとして、インターネット予約サービスを開始した。 (4) 移動図書館「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (3) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働により図書館運営の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出冊数は、一般書が49,850冊(-2,889冊)、児童書が38,223冊(-1,160冊)、視聴覚資料及び雑誌が6,451冊(-129冊)、合計94,524冊(-4,178冊)であり、貸出人数は21,132人(-1,195人)であった。 (2) コロナ禍において、非来館型サービスのひとつとして、インターネットから白石市図書館所蔵の本を予約できるサービスを令和3年1月から開始し、延べ187人が利用した。 (3) 市内16箇所のサービスポイントにおいて、4,689冊(-6,168冊)の図書を貸し出した。また、20箇所の配本所へ6,353冊(+120冊)の図書を配本した。 (4) 書架整理6人(±0人)、読み聞かせ17人(-1人)、図書館支援4人(-1人)のボランティアが登録し、延べ128回(-74回)の活動を行った。		
5. 事業の成果・課題等	<b>【成果】</b> 年間を通し、各分野から3,922冊(+804冊)の図書等を受け入れ、所蔵資料の充実を図った。また、ホームページ等を通して提供しているサービス内容の周知を積極的に行い、利用促進を図った。こまくさ号において配本所への配本冊数を増やし、安心して本を読める機会を増やした。コロナ禍において1ヵ月程度の休館をせざるを得なくなったこと、加えて、利用者の中には人との接触を避けるという行動変容もひとつの要因として、貸出冊数、貸出人数共に昨年度実績を下回った。  <b>【課題】</b> 人口減、電子書籍の普及等により、利用者数等が減少している。現在のホームページ・図書館だよりの内容を再考し、蔵書資料の紹介や図書館の魅力を発信する方法を模索する必要がある。また、子どもの読書活動、生涯学習活動を促進するためにも、学校、関係各課及びボランティアとの連携をより強化し、引き続きコロナ対策を徹底し、資料の提供のみでなくレファレンス機能の充実など市民の利用しやすい図書館づくりを行う必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	・職員の対応が迅速かつ親切ですばらしい。 コロナの影響や電子書籍の普及により、来館者数が減っている中、ホームページなど適時に更新され、情報発信に努めている様子が見られ、とても良いと感じた。今後とも引き続き対応をお願いする。 ・以前実施した廃棄図書のサービスは、とても良い取り組みであるので、幼稚園、保育園等にも紹介し、利用促進を図るとよい。 ・子どもの学力向上に図書館の役割は大きい。子どもたちの利用を増やす工夫を検討してほしい。		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-①)・図書館の充実(3-(2)-②,⑦)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに市民の文化意識の高揚を図る。		
1. 令和3年度予算額	— 千円	2. 令和元年度決算額	— 千円
3. 令和2年度の事業内容	<p>(1) 6か月児ブックスタート 6か月児育児相談日に、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせを行い、絵本に触れるきっかけづくりを支援する。</p> <p>(2) おはなしひろば アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居等の読み聞かせを行い、子ども読書活動を推進した。</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 保育園、幼稚園及び学校等において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせを行い、子どもの読書活動を推進した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(1) 6か月児ブックスタート(6か月育児相談日に実施) 健診担当課と協議の上、中止とした</p> <p>(2) おはなしひろば 開催回数:13回 参加人数:大人 37人 子ども 58人 ボランティア 17人 (-9回) (-58人) (-169人) (-32人)</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 開催回数:26回 参加人数:大人 64人 子ども 723人 ボランティア 50人 (-40回) (-346人) (-1,120人) (-80人)</p> <p>※(2)(3)は、4月から実施予定をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の方針を受け、9月から開催となり前年度比減となった。</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 コロナ禍において、実施回数が少なくなるなかでも、対策等を講じながら、読み聞かせボランティアの積極的な活動と、保育園・幼稚園・小学校など出前読み聞かせ先の読書推進に対する理解と協力連携を得て、幼児・児童が普段の生活の中で図書と触れる環境をつくるため、読書に触れる機会を数多く提供し、子ども読書活動を推進することができた。</p> <p>【課題】 おはなしひろばについて、感染拡大防止の観点から人数制限を設け、また、開催日が他の季節行事と重複しないような工夫と、興味・関心を引くような事業内容を検討しなければならない。また、読み聞かせを担うボランティアのネットワークを広げる機会を設け、活動の継続とボランティアの育成につなげる取組を検討する必要がある。さらに、学校との連携を強化し、各学校にあった学校図書室の機能充実を図らなければならない。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・コロナ禍で対策を取りながら事業を実施しているのは素晴らしい。</p> <p>・学力向上と読書の関係は強く、おはなし広場や読み聞かせの事業どを通し、活字に触れる機会を絶やすことなく、継続してほしい。</p> <p>・読み聞かせは、中学校でもできないか検討してほしい。</p> <p>・ボランティアの高齢化に伴い人材確保に努めてほしい。</p>		